



し わ そ う 志・和・創

厚東川中学校
学校だより
2021/11月号
No.2

「目に見える学力・目に見えない学力」

校長 梅津 麻由美

日ごとに秋が深まり、紅葉が美しい季節になってきました。2学期は運動会や文化祭、宇部市制施行100周年記念式典への太鼓出演など、大きな学校行事が続きました。コロナ禍のため、異学年での活動が制限された期間もありましたが、生徒は前向きに諸活動に取り組んでいます。学校行事を通して、たくましく成長していく生徒の姿を見るたびに、本当にうれしい気持ちになります。

11月後半には期末テストが実施されます。また、これから3年生は進路説明会や進路相談会を控えています。行事での成功を糧として、今後は学力の向上をめざしてほしいと思います。

さて、兵庫県の小学校教員で、百ます計算を発案した岸本裕史さんの著書に「見える学力、見えない学力」というタイトルの本があります。内容を少し紹介します。

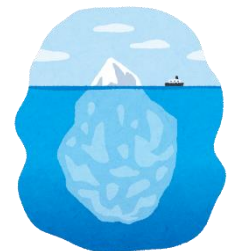
冰山を思い浮かべて下さい。冰山というものは、大部分が海面下に沈んでいて、8分の1だけが海面上に姿を見せています。子どもの学力も、それと似ているのです。テストや通知簿で示される成績は、いわば見える学力なのです。その見える学力の土台には、見えない学力というものがあるのです。見える学力をたしかに伸ばすには、それを支えている見えない学力を、うんとゆたかに太らせなければならないのです。貧弱な土壌では、果実の実も、ちっぽけなままでしかありません。

目に見える学力とは、テストの得点のように数値で表すことができるものです。一方で、目に見えない学力とは、生きていく上で必要な力・基盤となる力です。例えば、こつこつと毎日続けることで身につく学習習慣や、一定の時間学習に取り組むことで培われる粘り強さや集中力、興味をもち自分から進んでやってみることで育つ学習意欲、人との関わりを通して育まれるコミュニケーション能力などが見えない学力だといえます。

各種学力調査の結果から、本校生徒の学力課題には次のようなものがあります。「語彙力が不足している」「設問の意図が理解できていない」「言葉や式を使って説明する記述式の問題が苦手である」

学校では課題解決に向けて、「基礎学力を定着させる」「読書活動を推進し、多くの言葉にふれるようにする」「教育活動の様々な場面で自分の言葉で話したり、書いたり、説明したりする場面や時間を増やす」「学び合いを推進する」等に全校体制で取り組みます。

今後も目に見える学力と目に見えない学力をバランスよく育成していきたいと思っています。ご家庭でも、生徒への応援や励ましの声かけにご協力をよろしくお願いいたします。



～ 文化祭 ～

10月23日(土)文化祭を開催しました。運動会と並んで、生徒にとって中学校生活の中で大きな思い出となる行事です。新型コロナウイルスの影響で昨年度に引き続き、午前中だけの開催となりましたが、生徒たちはステージ発表や展示発表に向けた練習や準備に熱心に取り組み、文化祭を成功させることができました。



緊急時引き渡し訓練

文化祭終了後、引き続き緊急時引き渡し訓練を実施しました。ここ数年、毎年のように各地で大きな自然災害が発生し、甚大な被害が発生しています。厚東川中学校区でも、いつ災害が起きてもおかしくありません。災害が発生した時に整然と行動できるよう、日頃からの備えが必要です。訓練に参加・協力していただきました保護者の皆様、ありがとうございました。



キャリア教育講演会 (JAXA)



11月15日(月)、キャリア教育講演会が東岐波中学校を会場に開催され、厚東川中学校の生徒はオンラインで参加しました。宇宙航空研究開発機構(JAXA)追跡ネットワーク技術センター軌道力学チームの池田沙織さんと株式会社アストロスケールの飯塚清太さん(もとJAXA射場管制官)の二人がスペースデブリ(宇宙ゴミ)のお話を中心に宇宙に関わる職業につくまでの経緯や現在の仕事内容などについて話されました。生徒たちにとっては、普段あまり接することのないJAXAや宇宙のお話に興味深く聞き入っていました。

箏教室

10月29日(金)に宇部市の伝統文化推進事業の一環として「箏教室」を実施しました。講師の杉原紀子先生のお話を真剣に聞きながら慣れない手つきで糸をはじめていました。箏はテレビなどではよく目にする楽器ですが、実際に触って演奏するというのはなかなか機会がなく、とても貴重な体験となりました。

